

セネガル相撲について

セネガルの国技であるセネガル相撲は、もともとセネガル南部やガンビアで農繁期が終了した後の娯楽として行われていた伝統的な競技である。日本の相撲とは異なり、ルールは両手と両膝をすべて同時につくか、尻もちをつくか、または背中を地面につけたら負けというものである。本来手を使う技はあまり用いられなかったが、掴む、叩くなどの技を発達させ、より娯楽性の強い形になったものが、現在テレビなどで放映され、人気を集めているセネガル相撲である。

こうしたプロの試合は、トーナメント形式等ではなく、プロモーターが注目度の高い力士の組み合わせで個別に試合を企画することで行われる。トップクラスの力士の試合ともなると、プロモーターが両者合わせて1億 Fcfa（約2000万円）など高額報酬を力士に支払い、チケット代やスポンサーからの出資で元手が回収されるが、報酬が高額すぎて利益が上がらない場合もある。こういった有名力士の試合数は、年間通して1試合など、極端に少ないが、試合自体は時にはものの数十秒で決着が付く場合もある。

セネガル相撲の世界にも相撲部屋のようなものがあり、各部屋が推薦する力士に国家セネガル相撲運営委員会（CNG）が免許を発行することでプロ力士が誕生する。2010年から2011年の間に登録されていた力士の数は3029人に上る。

日本の相撲の番付のような細かいランク付けは存在しないが、チャンピオンは *roi des arènes*（闘技場の王）と呼ばれる。現在の *roi des arènes* は、数か月前に前チャンピオンの *Balla Gueye*（バラ・ゲイ）IIを破った *Bombardier*（ボンバルディエ、「爆撃機」の意）である。その他の強豪として、*Tyson*（タイゾン、「マイク・タイソン」に由来。親米家であるらしい）、*Gris Bordeau*（グリ・ボルドー、由来は不明だが「灰色・赤紫色」の意）などユニークな四股名の力士が続く。

こうした有名力士の人気は凄まじく、かつての日本の長嶋や王のような国民的大スターである。彼らは多くのCMや広告に起用されている他、街中至る所に写真やプロマイドが飾られている。その時々の大人気力士の名前を挙げ、「バラ・ゲイIIとボンバルディエどっちのファンか」などと質問されて、自分の最頂の力士の名前を即答できない人はいないほど、セネガル相撲は国民的娯楽として根付いている。